

## リコーグループの主な事業内容

### [ 事務機器 ]

#### 画像ソリューション

##### ● デジタル画像

デジタル複写機、カラー複写機、印刷機、ファクシミリなどの機器および関連消耗品・サービスなど

##### ● その他画像

アナログ複写機、シアソ複写機などの機器、および関連消耗品・サービス・サーマルペーパーなど

#### ネットワーク/I/O(Input/Output)システム

##### ● プリンティングシステム

マルチファンクションプリンター (MFP)、レーザープリンターなどの機器および関連消耗品・サービス・関連ソフトなど

##### ● その他I/Oシステム

光ディスク応用商品およびシステム、スキャナーなど

#### ネットワークシステムソリューション

パーソナルコンピューター、サーバー、ネットワーク機器、ネットワークソフト・アプリソフトおよびサービス・サポートなど

### [ その他 ]

#### その他事業

光学機器、計量器、半導体など



IP-SIO G7570



imagio Neo 752ec

## 第三者意見

### リコーグループ社会的責任経営報告書への意見

環境問題を事業戦略に統合し理念をもって環境経営を展開しているリコーが、社会の課題全般についても強い意識をもって臨んでいる姿勢が、本報告書によくあらわれていると感じました。社会情報を環境経営報告書のなかに付属的に取り入れるケースが多いなか、環境経営報告書とは別バージョンで本報告書を発行しており、同社のCSRへのコミットメントが経営の根本に根ざしているものと理解できます。

なかでも特に評価されることは、以下の点です。

#### ● 中期経営計画においてCSRの方向を明示

リコーでは2005年度から新たな中期経営計画がスタートしていますが、そのグループビジョンのなかで、環境経営とともにCSRを果たすことが明示されています。CSRの展開には、理念を掲げるだけでなくこれを事業戦略に落とし込んでいくことが必須で、実践での成果が今後期待されます。

#### ● 本部機能の体制とともに、実施レベルのPDCAの徹底

環境経営と同様に、本部から実施部門まで様々なレベルでのPDCAサイクルを設定し、全員参加のCSR推進を浸透していく体制が評価されます。

このように、社会活動について基盤が広がっている2004年でしたが、今後のさらなる展開に向けて、下記の点に留意して取り組んでいただければと考えます。

#### ● ステークホルダーの関心事を活動に反映する

CSR展開の基本スタンスとして、ステークホルダーの要望・評価を取り入れることを示していますが、報告のなかではその具体的な展開がよく見えてきません。各所で行っているコミュニケーションを、個々の活動に活かしていただきたいです。

#### ● 「人間尊重」の内容拡充

より具体的に顔の見える人間尊重、つまりステークホルダーと向き合った活動の報告が不足がちです。特に主要なステークホルダーとして認識されているお客様についての報告がほとんどされていないことは、今後改善していただきたい点です。

#### ● 海外事業拠点への拡大

事業がグローバル展開している今日、今後は海外活動でもCSRに取り組むことが必要です。

#### ● 社会レベルの課題を事業戦略に統合

環境問題におけるコメントサークルの提案のように、CSRにおいても社会・地域レベルでの問題意識を持ち、この解決に御社の事業を位置づける方策が考えられれば、より戦略的な活動になり得ます。

一企業が事業を通して地域レベル、グローバルレベルでの社会問題の解決に関ろうということは、簡単なことではありません。そうしたなかでも、今後一歩ずつ取り組みを積み上げていかれることを期待いたします。

創

(株)創コンサルティング 代表取締役  
CSRマネジメント推進フォーラム・  
テクニカルアドバイザー  
海野 みづえ 様

